

2009年11月30日

文部科学省基盤政策課
千々岩良英 専門官 殿

日本理科教育学会
会長 橋本健夫

理科教育関係予算の仕分け作業等に関する要望

明治の近代国家建設以来、我が国は科学技術の振興によって、いくたびかの苦難を乗り越え発展してきました。特に、第二次世界大戦によって多くの優秀な人々を失い、焦土と化した日本を世界の一流国として甦らせたのは、科学技術に裏打ちされた日本国民の勤勉さに他なりません。

この土台を作ったのは、明治以降国を挙げて着実に行われてきた学校教育であり、その改革の先頭に立ってきたのは、理科教育です。それは、我が国の理科教育のレベルが世界トップクラスであることによっても証明されています。理科においては、ものの見方・考え方を育むとともに、合理創造の精神を鍛え、世界に羽ばたくための視野とチャレンジ精神の涵養を行ってきました。これらは、いずれも科学技術の進歩を支える基盤となっています。

情報が一瞬にして世界を駆けめぐり、社会が大きく変化する時代にあっても、我が国が大きく動揺することなく発展し続けるためには、学校教育、特に理科教育の振興に力を入れ、新しい科学技術を生み、育てることが不可欠となります。

しかるに、今回の仕分け作業において、理科支援員派遣事業をはじめとした理科教育関係及び自然科学推進の予算に厳しい目が注がれていることについて、非常に憂慮しています。単に、理科教育や自然科学を特別視していただきたいと申し上げているわけではありません。我が国の発展に対して理科教育や自然科学が貢献してきた大きさ、及び、日本の将来にとってこの両者が果たす重要な役割を今一度思い起こして頂きたいのです。

教育の成果を示すには、長い年月が必要であることはご存じのことと思います。明治以降 100 年を超える年月の中での先人たちの汗や努力が、いまやつと花をつけ、実を結ぼうとしているのです。この貴重な実を、次世代に継承しなければなりません。長年の知恵と工夫から生まれ、時代を先取りする教育を継続することが非常に大切となっています。それが、技術革新の先頭を走り、世界の経済をリードする我が国の基盤であることを忘れないで欲しいと思います。